

令和4年度 富山高等専門学校 運営諮問会議 議事概要

日 時：令和4年11月15日（火）午後1時30分～午後4時30分

会 場：富山高等専門学校本郷キャンパス大会議室

【会議次第】

1. 開会挨拶

2. 出席者紹介

3. 議 事

[1] 富山高等専門学校の現状と課題について

[2] その他

4. 閉会挨拶

【出席委員】

稲 積 佐 門（富山高等専門学校同窓会会長）

齊 木 志 郎（富山県商工労働部次長）

齋 藤 滋（富山大学長）

佐 伯 則 男（北日本放送株式会社常務取締役）

下 山 勲（富山県立大学長）

白 江 日呂雄（富山県中学校長会会長）

杉 野 岳（株式会社スギノマシン副社長）

高 木 繁 雄（株式会社北陸銀行特別参与）

玉 川 宏（一般社団法人全日本船舶職員協会理事）

横 田 格（公益財団法人富山第一銀行奨学財団理事長）

【欠席委員】

石 崎 大 善（富山高等専門学校技術振興会会長）

荻 布 佳 子（富山県教育長）

久 和 進（北陸電力株式会社相談役）

[敬称略, 50音順]

【富山高等専門学校出席者】

國 枝 佳 明 (校長)
塚 田 章 (副校長)
山 本 桂一郎 (副校長)
井 上 誠 (教務主事)
山 内 浩 一 (事務部長)

議 事

[1]富山高等専門学校の現状と課題について

【國枝校長説明】

令和4年度年度計画, 令和3年度自己点検評価については事前に連絡させていただいた内容についてご意見, ご質問等をお願いしたい。それでは, 本校の現状と課題についてご説明させていただきます。

富山高専の取組み(プロジェクト)として, COMPASS5.0:数理・データサイエンス・AI教育プログラム拠点校として活動しており, リテラシーレベル50万人/年, 応用基礎レベル25万人/年といった国が掲げる優れた教育プログラムに, 本校では2021年に全学科でリテラシーレベル, 2022年にリテラシープラスの認定を受け, 電気制御システム工学科, 電子情報工学科が応用基礎レベルに認定されている。Ti-TEAMといった1年生6学科混成での産業界と連携・協同し, 低学年から課題発見・課題解決力を養成も行っている。

GEAR5.0プロジェクトにも参加しており, 介護・医工におけるアシスティブテクノロジーに主観を置いた, スイッチを押せない人向けのセンサースイッチ, 「触るスイッチ」を開発した。

教学マネジメント推進事業については, 本校に教学IR室を設置し, 教育目的の達成管理, 高度化・改善活動促進のため, IRを用いた点検・評価改善を実施しており, 全高専に向けて情報共有と発信を行っている。

次世代人材育成事業として, ジュニアドクター育成塾を開講しており, 小学5年生から中学3年生までの定員40名に対して, プログラミングや乗船実習, 見学・講座を実

施し、研究成果の発表をもって修了としている。また、第2段階として、第1段階修了者から10名を選抜し、翌年各研究室に配属し、研究テーマを設定し、研究を進めるといった体験を実施し、更に優秀な者には、全国のジュニアドクター育成塾の受講生が集まるサイエンスカンファレンスに推薦している。

その他にも、①次世代の海洋人材の育成事業、②タイ政府奨学金留学生受入事業③CBT (Computer Based Test) 問題作成、④大学連携教育プログラム、⑤留学生受入事業、⑥国際原子力人材育成イニシアティブ事業といった様々な事業に取り組んでいる。

高専の特徴として、人間としての錬成時期である「15歳からはじまるカレッジライフ」を合言葉に教育を施している。5年一貫の教育の中で、1年生から段階的に専門科目を導入していく「くさび型教育」が特徴的であり、3年生では総時間数の約半分、4、5年生はほとんどが専門科目になり、実験・実習による実践的教育が特徴である。

また、カレッジライフといっても、15歳からの多感な年頃のため、担任・副担任を配置し、ホームルーム等も行い、学生一人一人にきめ細やかな指導とサポートを心がけて、全員卒業させることを目指している。課外活動も運動部、文化部各種揃えており、ロボコンを代表とした技術系のコンテスト、英語プレゼンテーションコンテストにおいても優秀な成績を収めている。

本校の課題として、高専の社会的認知度の低さと考えており、HPの充実や出前授業等を通して高専の「強み」を広める努力を行っている。また、志願者対策に重点を置いて広報活動を行っており、校長や教員による富山県内中学校への訪問により本校に対する要望を確認したり、広報物やオンラインを活用して富山県外へも発信したりしている。

グローバルで高度な人材育成のため、教員も研鑽し、高いレベルでの教育を実施しており、中学生から興味、関心を持ってもらえるよう、よりよい学校となることが目標である。

【質疑応答及び意見交換】

(齋藤議長)

富山高専の現状と課題ということで説明があった。データサイエンス、ジュニアドクター育成塾、教学マネジメント、くさび型教育、志願者対策、または、令和4年度年度計画及び令和3年度自己点検評価を含め意見、質問があればお願いしたい。

(杉野委員)

原子力関係について、弊社も原子力関係に携わっているが、人材不足について痛感している。一時期は、理系において花形事業だったものが、現在は悪者のような扱いを受けて、選択される人が減っている。やらなければならない仕事は確実にある中で貴校の取組みは非常に有難いと感じている。具体的にどういったことをされているか、伺いたい。

(國枝校長)

国際原子力人材育成イニシアティブ事業における高専機構の対応として、本校を中心として、10項目の事業に対応をしており、線量計を各高専に配布して、低学年生に使い方を学ばせるといったもの、夏休みを中心に各地にある電力会社の見学、近畿大学と東海大学で、インターシップのように学ぶもの、原子力関係施設を持っている海外の大学、例えばカナダのマクマスター大学等への見学、原子力フォーラムでの研究発表、といった様々なことを実施している。

(杉野委員)

事業を体験した後の卒業生がいるか、伺いたい。

(國枝校長)

本事業、長く実施している。原子力関係の学部、学科に進学した者もいれば、会社のキャリアセミナーを通じて、電力関係企業に勤めている者も既にいる。

(杉野委員)

見学先として、電力会社の他、重電メーカー、または当社のように電力会社等と一緒に取り組みを行っている企業も入れてほしい。原子力事業を行っているのは電力会社のみに限らない。また、電力会社や重電メーカーは大型の実装は行うが、実機の細かい部分については、当社のような企業が製造及び検証しており、現場では高専生が即戦力となる。当社以外でも複雑なロボットを製造している会社があるので、是非高専生に見て、刺激を受けてほしい。当社は受入れの準備をしているので、見学の要望があれば受け入れるつもりである。

(國枝校長)

高専機構には、廃炉ロボコンがあるので、興味がある学生はいると思っている。見学先については、事業担当と検討していきたいと思っている。

(玉川委員)

富山高専が取組んでいる事業の中に、次世代の海洋人材育成事業について、全日本船舶職員協会（以下、「全船協」という。）としては、人財育成に力を入れて頂いていることは非常にありがたい。課題の中で、認知度と志願者確保について、同窓会の人材を活用することを考えて頂きたい。同窓会としても協力は惜しまないつもりである。特に海洋教育、海運・港湾が見直されているので、5年6か月の一貫教育の場所として無くしてはならないと考えている。

（齋藤議長）

商船学科の倍率は減っているか、伺いたい。

（國枝校長）

志願者倍率が一番低いのが商船学科です。

（山本副校長）

10年以上前に、志願者がかなり少なくなった時期があった。次世代の海洋人材の育成に関する事業において、広報事業にも力を入れており、学校での志願者対策に加え、全船協にも多くの協力をいただいた。近年はこの、少子化の中でも、少しずつ回復してきている。ただ、今後より一層の志願者対策が必要であることは事実であり、危機感を持って取り組んでいる。

（玉川委員）

全船協理事会において、「1. 船舶職員、公安関係の人材育成における乗船実習を含めた、5年6月の一貫教育の維持」、「2. 5商船・高専の練習船建造の推進」、「3. 日本船主協会が掲げる、一般大学を卒業した学生を、練習船に乗船させて、船舶職員を育成する計画については、断固反対」を推進していることを報告する。

（下山委員）

学校要覧で、機械システム工学科の志願者57名、受検者57名、合格者43名であった時に、実際に何人入学しているか、伺いたい。

（塚田副校長）

ほぼ全数が入学している。

（下山委員）

現状と課題の中でもあるとおり、IRが重要だと考えている。高専でのIRは機構本部が大枠を作って運用しているのか、学校毎に運用しているのか、伺いたい。

(國枝校長)

高専機構全体として、I Rを含めた教学マネジメントを展開しており、本校及び数校が、推進校として形を作って全高専に広めている。本校では、塚田副校長が中心となっている。

(塚田副校長)

高専機構本部の方針は、各校で実施するという方針である。ただ、高専機構は51の学校があるため、入試が同じという状況、アンケートがほぼ共通であるといった、評価材料がある。一つの例であるが、満足度を収集した時に「73%が満足である」といった回答に対して、51校との比較の中で「高い」「低い」は判別することができるため、機構本部に対して、全体で情報収集を要望して、形づくりを実施している所です。

(下山委員)

素晴らしい取り組みだと思う。次にジュニアドクター育成塾について、乗船実習はアウトドア向き、プログラミングはインドア向きではあるが、本人の人生観に影響を及ぼすような影響があるか、伺いたい。

(國枝校長)

私を感じた所では、分かれていると感じている。ロボットプログラミングは、非常に人気がある。一方で乗船実習も楽しそうにしている。第2段階受講生5人のうち、4名受験、2名入学となっている。次の年は18名中、14名が入学している。本校としては宣伝効果の高いプログラムと思っている。

(下山委員)

留学生についてシンガポールは日本のGDPを超えているという情報もあるが、タイ、シンガポールの留学生が日本で学ぶ動機について伺いたい。

(國枝校長)

高専の一貫した教育システム、すぐに技術者になれる所が、海外でも認知されていると思っている。

(塚田副校長)

高専機構はタイに高専を作っていて、「KOSEN」というブランドを作っており、いくつかの国が候補になっている。

(山本副校長)

タイの他，エジプトとベトナムに作る構想があり，高専の「くさび型教育」システムをそのまま各国に輸出し，その国の学生を受け入れる仕組みを作っている。また，タイ，シンガポールの学生は，日本に行きたいというモチベーションを感じている。マレーシアは国を挙げて，留学生を日本に送っている。今後はどう変わっていくかは不明だが，興味深い部分でもあり，不安な所でもある。

（下山委員）

教育システムそのものを出せる所が凄い所だと思う。

（白江委員）

昨年度も学生の発表を拝見して，中学校を卒業した生徒をしっかり育てて頂いていると思って感謝している。子供は意欲，目的意識共に高いと思っているが，自分の思っていたものと違うとか，環境は素晴らしいが能力がついていけない，といった場合の支援体制はどうなっているか，伺いたい。

（國枝校長）

合わなくなった場合に，転科することができる。サポート体制については担任制を取っていて，できる限りバックアップすることを指示している。学生相談室に学生相談室員，カウンセラー，ソーシャルスクールワーカーを配置している。

（塚田副校長）

年間2～2.5%が退学している。学科及び勉強目的不一致の場合もあるが，家庭の事情で不登校になるという事例もある。進路変更については，学校側で親身になって対応し，円満に退学できるよう大事にしている。本学でも問題の大きさにより，学科長，主事，副校長，校長に情報を共有して対応している。

（白江委員）

学生相談室の利用状況について伺いたい。

（山本副校長）

時期により，予約が難しい期間がある。試験前は多い傾向がある。

（塚田副校長）

中学校はどういった体制を取っておられるか，教えて頂きたい。

（白江委員）

県の公立中学校にソーシャルスクールワーカーを配置している。担任以外に，生徒指導

主任，学年主任にも相談できる。

（齋藤議長）

大学でも保健管理センターで対応しており，カウンセラーを増やしている。いろいろなストレスを抱えている学生の話聞いて，授業に戻ってもらうように対応している。環境の変化も要因としては大きいと感じている。

（佐伯委員）

カウンセリングが必要な一般的な悩みの対応と，15歳で入学して，工学教育に向かず文学部に行きたいとなった場合にどう対応しているか伺いたい。自分も高専出身で，3年生から4年生になる時に何人も辞めていった中に早稲田大学に入った人もいる。入学してからでも，いろいろな進路を選択できることが学生に伝われば，より魅力を感じてもらえると思われる。

（塚田副校長）

教学IRでデータを取っていて，ある年度の入学生が卒業するまでに退学する率は，10%程度あることが判明している。電子情報工学科でも，たまにはあるが，文系に進みたい学生がいたケースでは，3年生時に私立に進学したケースと卒業後経済学部編入したケースがある。

（玉川委員）

同じように，商船学科でも全く異なる分野に進んで成功される方もいる。多感な時に職業を選ぶことは悪いことではないと思っているが，同窓会が手伝いして，卒業生の話聞ける場を作れば，学生に対するサポートになる。

（井上教務主事）

「くさび型教育」として，低学年のうちあまり専門的ではないが，最近では，キャリア教育も行っている。その中で同窓生と対話できれば，大きな影響になると思っている。

（稲積委員）

志願者確保について，中学校に誰が行って，どう対応しているか，また，中学校説明会について，お聞きしたい。

（國枝校長）

中学校に教員が1-2名，春6月，秋10-11月に訪問して，要望を伺ってくる。夏

休みに、校長が中学校を訪問している。今年40校ほど行っている。学校説明会は中学校の先生を招いて、学校の説明を教員が行っており、学科紹介は各学科の学生が行っている。

(稲積委員)

自分も本校の卒業生ではあるが、先生に話すだけではなく、中学生に対して、高専生が学生生活又は20-30代の卒業生が仕事の話をする方が響くと思われる。

(塚田副校長)

現在でも出身中学に、本校1年生が呼ばれて話をしてくる機会がある。オープンキャンパスで実施している学生会学生の本音を聞く機会が非常に人気である。また、学習塾が高専志望の学生を本校に呼んで、説明しているものもある。

(國枝校長)

オープンキャンパスに来ていただく前に、本校学生を中学校に呼んでもらう機会は、増やしたいと思っている。

(井上教務主事)

夏の中学校訪問時に、要望を伺って対応している。

(高木委員)

女性学生比率がトップクラスとありますが、何パーセントか、伺いたい。また、国際ビジネス学科を除くと何パーセントになるかも併せて伺いたい。

(國枝校長)

全体で約36パーセント、国際ビジネス学科を除くと、約26パーセントである。

(高木委員)

本日の出席者は、全員男性である。ちなみに、私の年代は富山県だけで1学年約27,000人、その半分の13,000人が男性であった。今は男女平等社会と人口減少のため女性社長も増えており、早稲田大学は2万人、慶応大学では1万人が女性である。但し、理系は男性が多いため、理系を目指す女性を増やすことも大切。本学の先生方も女性が増えて、本会メンバーにキャリアを積んだ女性管理職が2名くらい入るように意識しないと組織のレベルが維持できない。例えると、北欧は特に人口が少ないので、軍隊、警察にも女性が多数入っている。日本は、今後1年毎に人口が100万人減少していくため、行政、学校、企業、どこの現場でも女性を育成しなければならない。女性比

率の高い富山高専は、高専の中で一番生き残る可能性が高いと思っている。

(塚田副校長)

国際ビジネス学科で女子生徒数が一番多いことはそのとおりである。国際ビジネス学科の影響かは不明ではあるが、射水キャンパスの電子情報工学科はクラスに女子生徒15人、商船学科はクラスに女子生徒18人で、他の工学系より女子生徒は多い。

(齋藤議長)

今回の補正予算、私立の文系から理系への転科に対して、500億の予算が配分された。北陸未来共創フォーラムでも、日本は圧倒的に理系女性が少ないことが話題になっている。欧米の学会では女性が多い。国の政策として、理系女性を育てていかないといけない。そういった意味では富山高専は追い風になっている。富山大学でも女性の准教授を採用し、昇任して教授が増えたが、准教授のポストは埋まらなかった。このことから理系女性を増やして、博士課程に教育し、下からの人材育成が必要であることを強く感じた。

(下山委員)

大学に入ってから育てることは、大学の役割だと思っているが、まず入ってもらわないと始まらない。県立大学ではバイオは女性が入学するが、電気と機械は女性が入らない。高校のスーパーサイエンスハイスクールで講義も行ったが、電子の電磁気学方程式、機械の力学公式が苦手であるのか、興味を向いてもらえない。周りから育てることが課題の一つであると実感した。

(齋藤議長)

機械、電子への興味は、男性の方が多い傾向がありそうだと感じている。国際アルミニウム合金会議の若手によるポスター発表者は、欧米はほとんど女性が発表しており、学会賞等も受賞する。逆に日本の方が歪に感じる。

(下山委員)

若潮丸の船長は女性ですよ。

(國枝校長)

卒業生で一般の商船にも乗船した経験豊富な方です。

(高木委員)

女性の多い国際ビジネス学科があって、情報学科があって、本学はそうした学科と一緒に

にやっていると男性も鍛えられるので、無理やり持っていくよりも全体でもできることは面白い。一つの取組みとして、早稲田大学では、女性が多いデザイン系大学と機械系との組み合わせた活動はいろいろやっており、生き残れる道と感じている。基礎学力として、データサイエンスを持っていると、集合分散、微分積分、統計確率の概念が学ぶことができ、経済でも非常に大事である。同大学の政治経済学部では、数学を必修にしたら、受験者は3割減になったが、偏差値が上がったと聞いている。

(塚田副校長)

本校でも、国際ビジネス学科においても、データサイエンスを取り入れる取組みを開始しようとしている。

(齋藤議長)

大学でも導入時は大反発だった。データサイエンスとは数学とは異なり、データ取得を機械が行い、解析し、解決策を見つける。大学では実習も取り入れて、発表することを目指している。富山高専は全学科でリテラシープラスを取得しているので、富山大学も全学部取得を目指している。

1ヶ月前の学長会議において、理系人材25万人を国立大学で達成して、そのうちの2,000人の高度人材を目指しており、文部科学省としては、リテラシーレベルは取って当たり前、応用基礎も半分は取得して当然だと思っている。

(下山委員)

理系の大学は目指しやすいが、文系学部がある大学は大変かと思っている。

(國枝校長)

応用基礎を全学科で認証取得を目指していく。国際ビジネス学科でも、経営に数学やデータサイエンスが必要であり、前向きに進めている。

(齋藤議長)

国がやっている共創型人材として、データサイエンス、グリーン、グローバル人材が掲げられている。富山高専において、グリーン人材、カーボンニュートラルについては記載がなかったが、どういった対応をされているか伺いたい。大学では5つの学部を横断的に取り組んで、教育を始めたところである。

(國枝校長)

グリーン人材については、研究している教員はいるが、学校全体での取組みはない

め、参考にしたい。個人として風を利用した帆船に乗っていたが、今は時代が変わり、MOLの松風丸が硬翼帆式風力推進装置を搭載しており、自分も開発にも携わったが、学生が入っていけばもっと変わっていくと思っている。

(齋藤議長)

企業側からは何かありますか？

(杉野委員)

グリーンエネルギー、海外では、契約のために必須として手形になっている。大前提として、値段や効果の話よりも前に、環境の話が来ることが肌感覚で分かっている人間が必要であり、高専に期待している。核融合及び水素社会は、夢と未来があると思う。SFなのではないかぐらいの所、敢えて若い時に係ることが、希望を持ってもらえていいと思う。1億度のプラズマを操っている人等を若いうちに見て、研究してもらい、自分たちが頑張ることで、時代をブレイクスルーして行けるというのを実感してほしい。現実的なことだけだと狭くなってしまう。

(國枝校長)

核融合は高専としては携わっている所はないが、水素については、GEAR5.0プロジェクトで扱っている。本校は介護医工の分野で進めているが、エネルギーについて研究しているグループもあり、来年度GEAR事業が一段落したら、研究成果が本校にも回ってくる。川崎重工が、水素エンジンの船を開発していると聞いている。

(杉野委員)

国立の教育機関ということもありますが、認知度にも繋がるような、キャッチーなアイコンとして、「これが富山高専のシンボルです。」と環境系を取り上げると、保護者にも大学だけではないという認知度向上を勝ち取ることができると思われる。

(國枝校長)

本校では、電池推進船もやっておりますので、それも含めて、やっていきたい。

(玉川委員)

海外研修プログラムについてですが、女性を入学させるという意味で、非常に魅力的だと思います。どれぐらいの学生が参加しているか伺いたい。

(塚田副校長)

10人程度行く年度もある。

(國枝校長)

1年、半年留学プログラムがあり、休学ではないため、留学中も単位が取得できる。留年しなくてもいいというのは非常に優れたプログラムである。

(塚田副校長)

国際ビジネス学科は、県外の受験生にも人気があり、商船も同様である。県外学生のほとんどは国際ビジネス学科と商船学科で占めている。

(國枝校長)

その他に、短期インターンシップでハワイ、北アイルランドの学校への短期留学もあり、コロナ前は行っていたので、再開を望んでいる。

(山本副校長)

海外インターンシップ関連は是非復活したいと思っている。インフレにより海外渡航のための費用が、飛行機代、滞在費共に上がってきており、保護者への負担になる。上手くプログラムを復活できるよう調整して行きたい。

(玉川委員)

逆に海外からの就労の魅力が低下しており、労働者が入ってこない。単純労働は人手不足に陥っている。

(齋藤議長)

横田委員、何かご意見がありましたら、お願いしたい。

(横田委員)

1万円札を維持するためには隠れた努力がたくさんある。他国に原料依存しない原料確保、暗号によりコピーが反応すると印刷が止まる技術、特殊な技術がたくさん使われている。お札を自国で作成できる国は、アメリカ、イギリス(ユーロ)、中国、ロシア、日本と意外に少ない。一つの通貨でも、総合力及びテクノロジーが必要である。そのためにいろいろな業者に発注し、育てるために、現場の意欲と技術が落ちないように、オリンピックのような行事で継承する技術を学ぶ訓練を行う。学問で追う部分と、産業の世界は異なるが、産業では一つの技術が30年続く。水素で電気を作るエンジンの車に、20年前に乗った。売れるまでに最低10年、一つのものができるのに時間がかかる。経済効率だけを考えるなら、大量生産の国に依頼することになるが、結果、飛行機は作れない、半導体も作れない、お札も作れないとなった時にモノをつくる技術の総合力の

低下は深刻な問題になる。学生達が社会に出たときの20, 30年先の夢を企業も経済産業省も謡わない。責任が持てないので、誰も言わない。高専の中で熱意、夢を持たせて、テクノロジーの基礎を教える、企業との関係、トータルの取り組み及び繋がりに期待している。

(齋藤議長)

大学の中では最近、連携が盛んになってきており、大学の中でも得意分野を生かした連携に企業も入るようになってきている。高専の状況はどうでしょうか？

(國枝校長)

機構本部があり、理事長が51校を活用して、素晴らしいパワーになると盛んに言っている。GEARの事業も単独ではできないが、複数校で連携して、世界に誇れるものを目指している。

(齋藤議長)

産学連携が、国際的な研究でも重要であり、また運営費交付金が削減される中で重要性が増している。高専ではどうでしょうか？

(國枝校長)

高専も同様です。機構も同じで運営費交付金が削られており、産学連携は必須である。本校では技術振興会があり、企業からの支援及び共同研究を行っている。

(齋藤議長)

アメリカ、ヨーロッパは、研究グループを作って、企業を入れて、あっという間に商品を作る。コロナワクチンもそうである。日本では、そういった仕組みができにくいため、高専でも形があれば率先して事業化してほしい。

(下山委員)

モデルナを作った会社も小さかったけど、オープンイノベーションにより大きくなったことは素晴らしいと感じている。

(齋藤議長)

齊木委員は何かご意見ありましたら、お願いいたします。

(齊木委員)

女性が少ないとの話があったが、男性と同じようにキャリアを積んだ女性が活躍しないと経済が保たないと言われている。ただ、富山県特有の問題として、少ない人口の中で

女性が流出し、男性が残ることが問題である。県の成長戦略でも、女性の流出を止めないと少子化に繋がり、富山県が衰退していくと言われている。女性が活躍できる場が富山県には少ない、女性が活躍できる仕事、職場が少ないということが挙げられている。富山県は「ものづくり」＝女性が入りづらい、女性が理系苦手、男性分野であるというのが無意識の決めつけが、女性にもあり、社会にもある。県内の企業には、女性の労働力確保のため、女性に選ばれる職場でないと、将来的に保たないということを言っている。県外から女性が好むような企業を誘致するという議論もあるが、高専の人材育成及び仕組みは好ましく見ている。富山高専は女性が多いが、工学系では比率が少ない。女性の学生の確保が年度計画にも書いてありますが、高専の努力、中学の教育もあるが、今後の人材育成が益々重要である。がんばって頂きたいと思っている。

(國枝校長)

女性については、理系が苦手という認識はあるが、教学 I R 室の統計では女性の方が男性より点数が高いという結果があり、工学系への適性はあると思っている。ものづくり、機械、電気系学科で女性を育てていき、学校へ戻って来て、先生になれば女性教員確保にもつながる。

(高木委員)

昔は、女は家庭科、男は機械、電気だったが、今の状況はどうであろうか。

(白江委員)

今は、男女平等で家庭科も技術も行う。

(齋藤委員)

今や男性も食事を作る時代になっている。

(下山委員)

白江委員、昔と比較して変わっていることはあるか。

(白江委員)

危険なものが減っている。技術でも半田を使うものは、簡単なものしか扱わなくなっている。

(杉野委員)

一番の原因は企業にあると思っている。企業の受け皿がないので、それを学ぶ人がいない。機械製造業では、圧倒的に女性が少ないことが文化になっており、就職先がないの

に勉強する人は、余程好きでない限りは選択肢にならない。私は高校では理系クラスだったが、女性が半分で理科も数学の成績も良かった。大学の工学部、社会人の機械業界に入ると本当に女性が少ない。男性でも、女性200人の会社に行かない。選択すらできない状況にある。会社が変わらないと、学校が頑張っても限界はある。当社でも取組んでやっているが、女性を採用したいけど、来てくれないので、採用できない。採用できないので女性が少ない、女性が増えないので学校で選択してくれる人が増えないといった悪循環に陥っている。逆に理系と一言言っても、医薬品は女性が多い。機械系に女性が少ないという表現が正しい。県に音頭を取ってもらい、行政、学校及び民間企業の一体で動かないと成り立たないと思う。

(齋藤議長)

中学校とか県にも、お願いしたい。今年、富山大学と名古屋大学で、入試に女性枠を設けて全国的に注目を浴びた。情報系は結構応募があったが、機械は1名しか応募がなかった。富山県は製造が多いので、人材が逃げていくことが課題である。

皆さんからの建設的な意見を今後の富山高専の運営・発展に役立てていただき、ご活躍を期待している。

[2]その他

【機械システム工学科5年 中 慎之介】

○「富山高専で過ごした学生生活」

【エコデザイン工学専攻2年 雨宮 佑馬】

○「モラトリウム高専生の歩み」

〔閉会 午後4時30分〕